

令和2年度 宮田中学校グランドデザイン

宮田村教育大綱
郷 育
 故郷に生き 故郷を愛し 故郷を創る 人財の育成

宮田村立宮田中学校

- 生徒の日々の取組**
 (本校の特色ある活動)
- ①校門での一礼
 (感謝の心・自己をみる心の育成)
 - ②朝の一斉読書
 (読解力・思考力の育成)
 - ③全校ランチルーム給食
 (連帯感・マナーの育成)
 - ④一心不乱の清掃
 (自立心の育成)
 - ⑤「自問の時間」の設定
 (自己評価力の育成)
 - ⑥課題を持って取り組む部活動
 (自主性の重視)
 - ⑦アルミ缶・空き瓶回収
 (勤労・奉仕の心の育成)
 - ⑧梅の木の管理と収穫
 (愛校・愛郷心の育成)
 - ⑨親子作業・親子運動
 (絆の醸成)

学校教育目標
自分の姿を見つめ 心豊かに伸びる
 ～教育理念【自己をみる】～

- 学力向上・生徒を育むための教職員の取組**
- ①主体的・対話的で深い学びの実践
 - ②授業研究と小中連携研究
 - ③地域に開いた総合的な学習、キャリア教育の推進
 - ④ICT研修の充実
 (授業実践の積み重ね)
 - ⑤道徳教育の充実
 - ⑥家庭学習の工夫
 - ⑦不登校傾向生徒へのチームによる支援と保護者との継続的な懇談及びSC連携
 - ⑧国際理解教育の実践
 (韓国ガムジョン中学校との交流)
 - ⑨地域と連携した防災訓練
 - ⑩子どもと向き合う時間の確保のために働き方改革の推進
 - ⑪生徒と共に悩み、一緒に考える教師集団

願う生徒像
 ○生きて働く知識・技能を得て、使うことのできる生徒
 ○人とかかわり合い、共に成し遂げようとする生徒
 ○学びを人生やふるさと宮田に生かそうとする生徒

- 学校経営の重点**
- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 学力の向上 | 3 体力の向上 |
| 2 心の成長 | 4 キャリア教育・総合的な学習の時間の充実 |
| (1) 差別のない集団 | 5 食育の推進 |
| (2) 不登校傾向生徒の減少 | |

手立て

- 【知識・技能を得て、使える力】**
- 1 授業改善・学力向上のための取組
 - (1) 授業の3観点の「ねらい」「めりはり」「ふり返し」に重点を置いた改善
 ・「めあて」や「学習課題」の板書
 - (2) 理解→判断へと発展する単元構想
 - (3) グループや全体での生徒による話し合い、学び合いを位置づけた授業
 - (4) 授業の終末で、次時の学習問題に対し見通しをもつような授業構想
 - 2 授業改善や学力向上を評価する検証方法
 - (1) 全国学調の結果をS-P表で分析して、学力の傾向を把握する。教科を横断的に見て指導法の検討を行う。
 - (2) 全国学調の「授業で、生徒間で話し合う活動を行っていた」で、当てはまる生徒の割合が県平均値を上回る。

- 【人とかかわり、共に成し遂げる力】**
- 1 主体的・対話的で深い学びを目指して、目的的にかかわり合うグループ追究やバスセッションの推進
 - 2 総合的な学習の時間で、アイデアを出し合い、友と共に創り上げるグループ毎のプロジェクト学習
 - 3 異学年清掃・給食による意見交換やコミュニケーション力の向上
 - 4 相談時間(月曜日)や朝学習など、自ら求め学ぶ場の設定

- 【学びを人生や宮田に生かそうとする力】**
- 1 「知ろう!宮田村」(1年)「体験しよう!宮田村」(2年)「よりよくしよう!宮田村」(3年)に基づき、地域に根ざし、地域を題材とした学年総合の推進
 - 2 宮田村の企業や先人の生き方に学び、人生に生かすキャリア教育「宮田村キャリア教育フォーラム」(2年)「宮田村こども議会」(3年)への参加
 - 3 「総合的な学習の時間」で支援ボランティアから学ぶ体験学習と宮田村と関わる活動への参加
 - 4 郷土学習資料集の活用(全学年)

山と語り流に思ひ
 風に聞き雲と遊ぶ
 うるはしき心のしらべ
 あめつちとともに
 昭和五十二年夏 順三

家庭・地域との連携
 総務・3委員会・地区会長会・学年によるPTA活動
 宮田村学校支援ボランティアの充実(宮田村CS)

自己をみる